

平成29年度 ニホンジカの捕獲実績について(速報値)

資料2

鳥獣対策・ジビエ振興室

1 第二種特定鳥獣管理計画に基づく捕獲目標と進捗状況

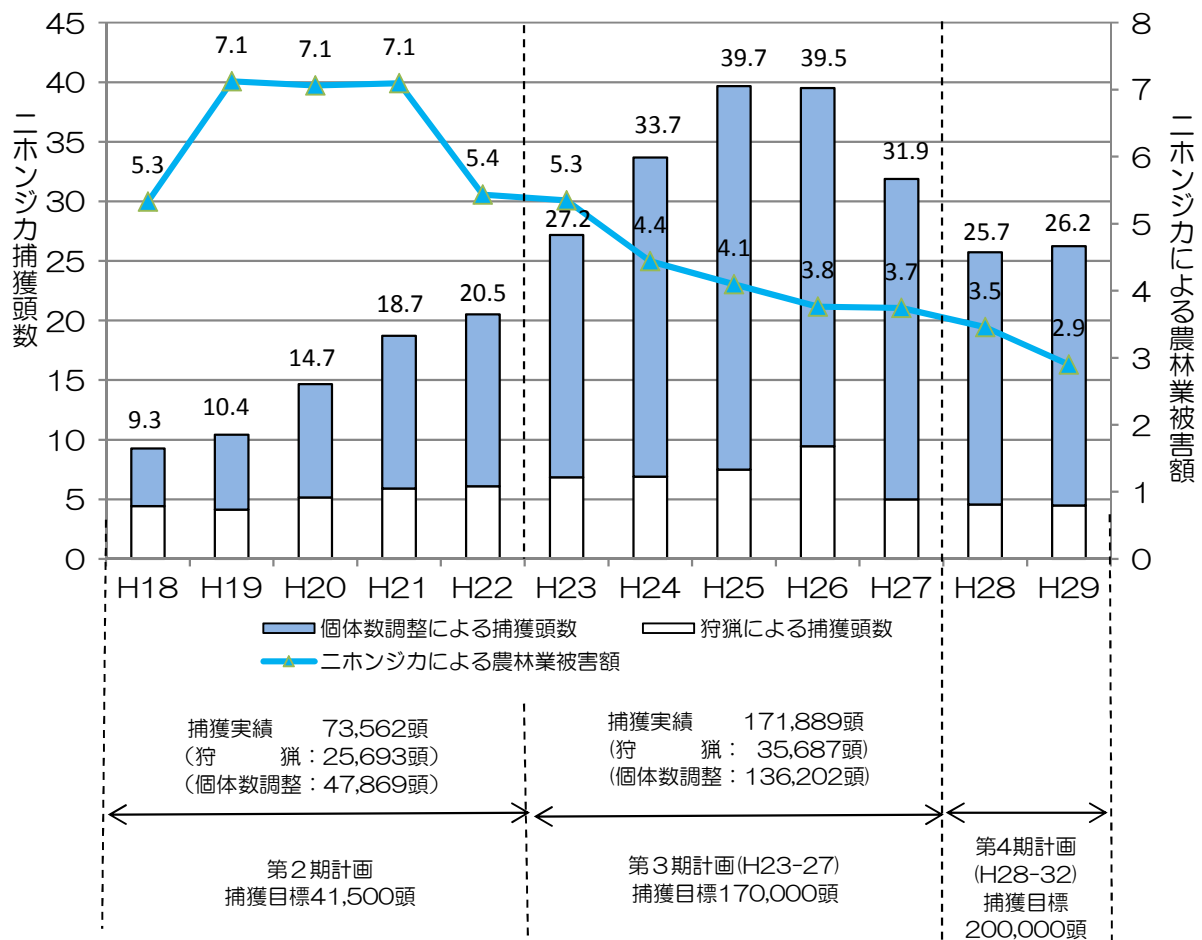
(単位：頭)

項目	年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29
捕獲目標 (A)		35,000	35,000	35,000	40,000	40,000	40,000
うちメスジカ (B)		26,000	26,000	26,000	29,000	23,600	23,600
捕獲実績 (C)		33,668	39,663	39,506	31,885	25,733	26,250
うちメスジカ (D)		19,979	23,673	23,784	19,256	14,878	14,637
目標達成率 (C)/(A)		96.2%	113.3%	112.9%	79.7%	64.3%	65.6%
うちメスジカ (D)/(B)		76.8%	91.1%	91.5%	66.4%	63.0%	62.0%

2 捕獲頭数と農林業被害額の推移

【単位：千頭】

【単位：億円】

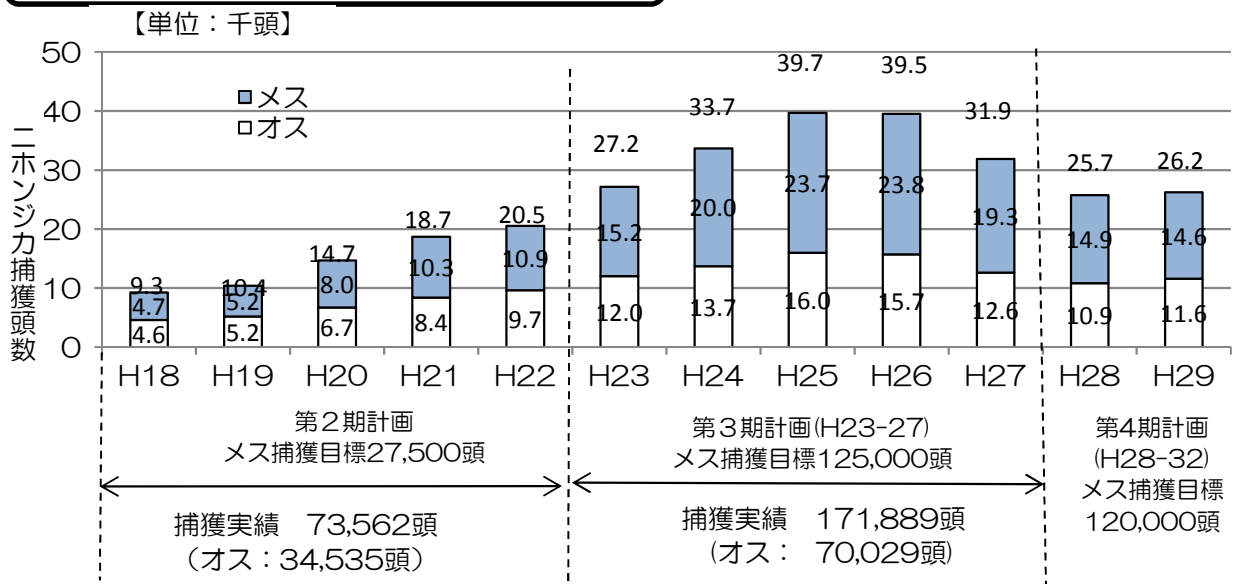


○平成29年度の総捕獲頭数は、26,250頭で、対前年比102.0% (517頭の増)

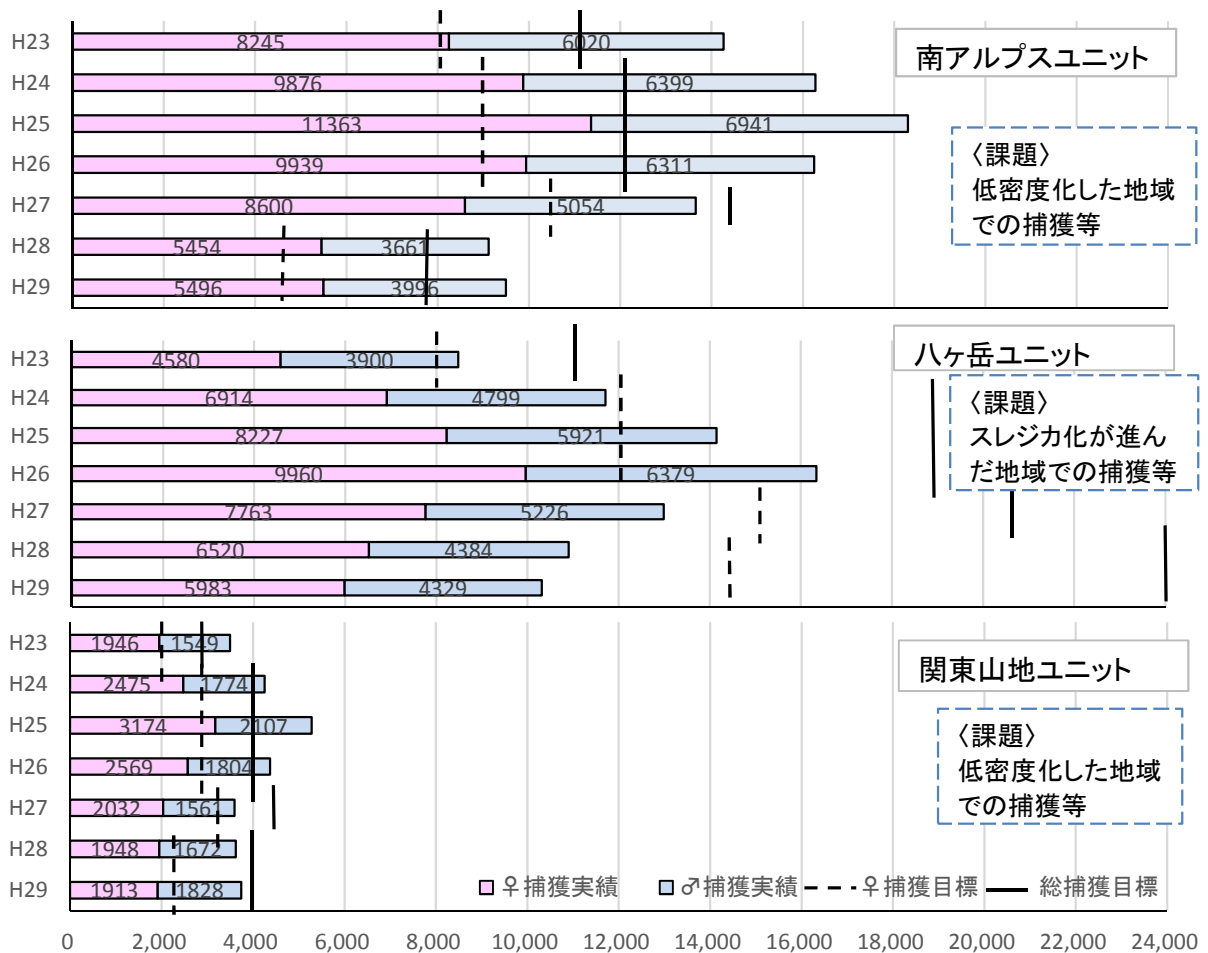
○狩猟による捕獲頭数は、4,495頭で、対前年比98.4% (72頭の減)

○個体数調整による捕獲頭数は、21,755頭で、対前年比102.8% (589頭の増)

3 オス・メス別捕獲頭数の推移

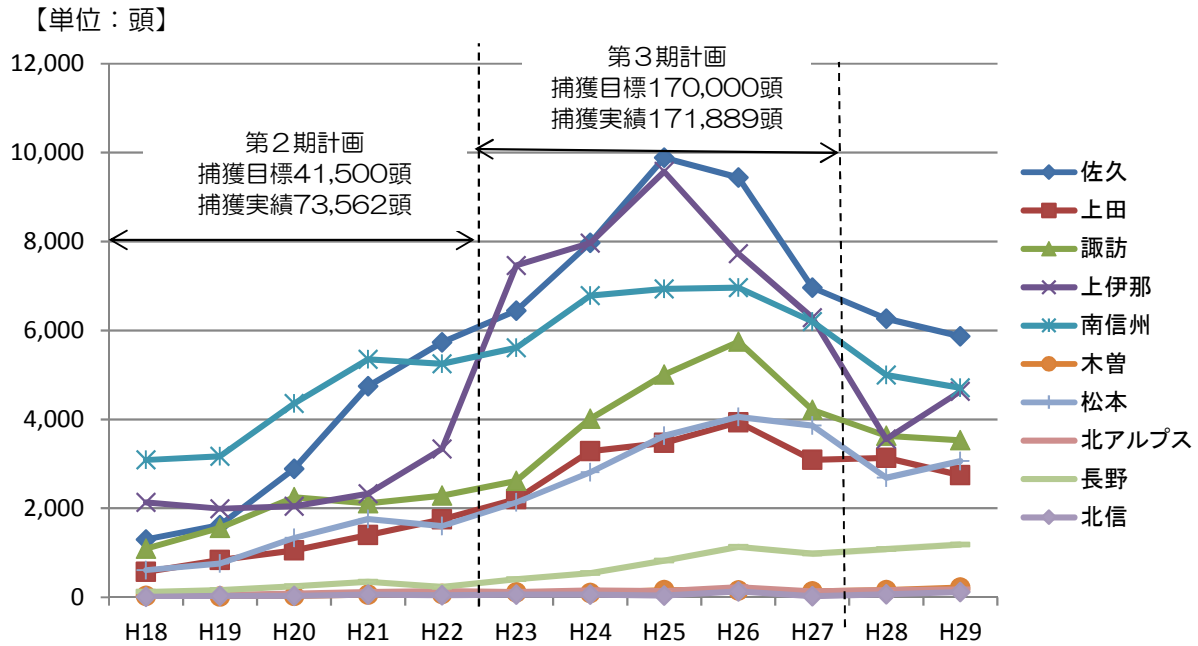


4 ユニット別の捕獲実績



南アルプスユニットは、捕獲数は減少傾向だが、第3期期間内のメス総捕獲数、総捕獲数ともに達成。ハケ岳ユニットでは目標を達成に向けて、高度捕獲技術を活用した捕獲の実証調査を継続。

5 地域振興局別捕獲頭数の推移



○上伊那管内での捕獲数が、捕獲方法の工夫などで回復（4,629頭（前年比130%））
○北アルプス、北信、木曾などの捕獲数に増加傾向が見られる。

☆シカの持続的、効果的な捕獲の推進に向けた専門家による検討（H29）を受けて

- ・ シカの生息分布、空間利用情報等の市町村、捕獲者との共有
- ・ 情報にあわせた捕獲方法の工夫

6 参考 シカによる自然環境への影響

1 南アルプス地域、ハヶ岳地域（シカの生息密度が高い地域）

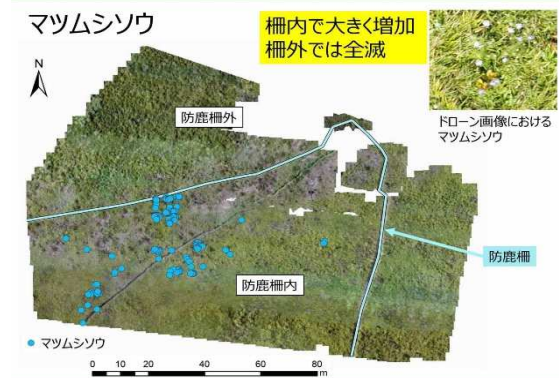
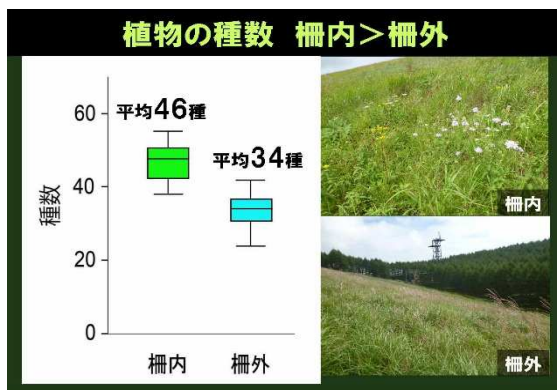
・ 南アルプスの高山帯では、樹木、植生への影響は継続している。しかし、捕獲が進んでいる標高1500m周辺までの目撃数は減少。

・ ハヶ岳地域の霧ヶ峰では、ニッコウキスゲなど草本類への影響は継続している。

2 中央アルプス地域、北アルプス地域（シカの密度が高まりつつある地域）

高山帯などのシカ目撃情報などに増加傾向が見られるが、植生への影響は未発生。

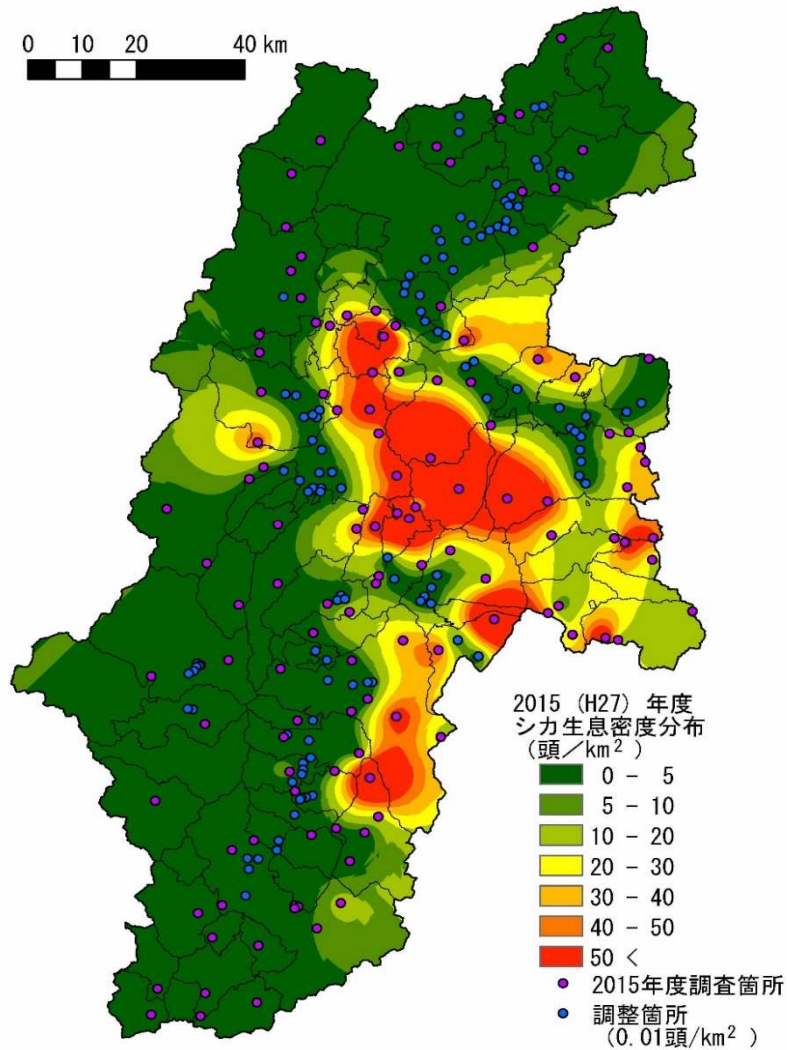
霧ヶ峰の事例 環境保全研究所発表資料(2018)



出典：中央アルプス野生動物対策協議会資料(2017)南アルプス自然環境活用連絡協議会資料、霧ヶ峰自然環境保全協議会資料、中部山岳国立公園野生鳥獣対策検討会資料(2018)

7 ニホンジカの生息密度分布推定(H27)

0 10 20 40 km



0 10 20 km



シカ捕獲促進に向けたシカの分布、空間利用情報の共有
第4期計画策定調査におけるシカ生息密度調査結果の視覚化の例